

令和5年度事業報告

1. 令和5年度、理事会及び評議員会の開催状況について

(1) 第109回理事会

- ・ 日 時 令和5年6月1日（木）10時00分～11時18分
- ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水
- ・ 議 案
 - 第1号議案 令和4年度事業報告（案）
 - 第2号議案 令和4年度決算（案）
 - 第3号議案 人事案件について
 - 第4号議案 定時評議員会の招集について
- ・ 報告事項
 - 上記、4議案が審議され、承認されました。

(2) 第85回評議員会

- ・ 日 時 令和5年6月16日（金）15時00分～16時15分
- ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水
- ・ 議 案
 - 第1号議案 令和4年度事業報告（案）
 - 第2号議案 令和4年度決算（案）
 - 第3号議案 役員人事について
- ・ 報告事項
 - 令和5年度予算の概要について
 - 令和5年度施設整備予算の概要について
 - 令和4年度の施設整備（国庫補助）について
 - ミルクプラントリニューアルについて
 - その他- 上記、3議案が審議され、承認されました。

(3) 第110回理事会

- ・ 日 時 令和5年6月16日（金）16時30分～16時40分
- ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水
- ・ 議 案
 - 第1号議案 理事長の選定について
 - 第2号議案 業務執行理事の選定について

上記、2議案が審議され、承認されました。

(4) 第111回理事会

- ・ 日 時 令和5年11月28日(火) 10時30分～11時40分
 - ・ 会 場 こどもの国会議室
 - ・ 議 案
第1号議案 人事案件について
 - ・ 報告事項
令和5年度上半期事業報告について
令和5年度上半期収支状況等について
令和5年度施設整備の概要について
令和6年度施設整備予算要求の概要について
- 上記、1議案が審議され、承認されました。

(5) 第112回理事会

- ・ 日 時 令和6年3月26日(火) 10時00分～11時20分
 - ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水
 - ・ 議 案
第1号議案 令和6年度事業計画(案)
第2号議案 令和6年度予算(案)
 - ・ 報告事項
令和6年度施設整備予算(案)の概要について
こどもの国開園60周年記念事業の実施について
ミルクプラントのリニューアルについて
- 上記、2議案が審議され、承認されました。

2. 入園者の動向

令和5年度の入園者数(有料) ⇒ 720,055人
(目標入園者数85万人:達成率84.7%)

(1) 近年の入園者実績

平成31(令和元)年度	854,739人
令和2年度	541,370人
令和3年度	764,361人
令和4年度	776,199人

(2) 半期ごとの状況

・上半期

上半期の入園者数は約351千人で、前年度比では約30千人の減となり、コロナ禍前の上半期3ヵ年平均（平成29～31年度）との比較では約129千人の減となった。

4月は約11千人の前年度比増で好調に滑り出したが、5月は一転して約18千人の減となった。5月上旬に新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類感染症に移行し、マスク着用の個人判断が浸透するなど、社会全体がコロナ禍前の姿に大きく近づくような動きがあったが、ゴールデンウィークの好天日においても前年度を下回る日があるなど、予想に反して入園者数は回復傾向が見られなかった。6月は前年度以上に梅雨の影響を受け、7月から9月までは前例のない記録的な酷暑日が続き、7月以外は前年度比減となる大きな影響を受けた。

プールの利用者は、コロナ禍前と同様に人数制限を行わずに運営したこともあり前年度を上回ったが、大型遊具のローラー滑り台の改修工事（6月上旬～3月中旬）やレジオネラ属菌によるせせらぎ施設の利用中止（8月上旬～9月中旬）といった人気の高い施設が一定期間利用できなかったことから少なからぬ影響を受け、上半期全体での入園者数は前年を約30千人下回った。

・下半期

下半期の入園者数は約368千人と前年度比約25千人の減となり、コロナ禍前の下半期3ヵ年平均（平成29～31年度）との比較では約16千人の減となった。

10月は休日が天候に恵まれた前年度に比べ、日曜日が3日間悪天候になるなど、前年度比約13千人の減となったが、11、12月は天候にも恵まれ僅かではあるが前年度比増となった。特に12月は例年より暖かい日が多く、スケートが予定していた初日から2日間閉場となる影響もあったが、外出しやすいことが影響したのか開園以来の最高の入園者数を記録した。1、2月は好調の流れは続かず、休日での雨天の影響やスケート利用者の減少により前年度比減となった。3月は、桜の時期が4月にずれ込んだが、比較的天候に恵まれたことで前年比増となった。

下半期の減少については、6月からのローラー滑り台の改修工事に加え、ミニSL、少年サッカー場の改修工事（11月中旬～3月中旬）による大型遊具の長期間の利用中止や天候が主な要因と考えられる。

年間の入園者数は、コロナ禍の影響を最も受けた令和2年度から、令

和3、4年度と回復してきたが、令和5年度は逆戻りし、コロナ禍前の3ヵ年平均との比較では約146千人の減となった。

3. 主な事業

「こどもの国協会の解散及び事業の承継に関する法律」第1条第3項に掲げる、児童の健全育成のための事業として、既存施設・設備を引き続き運営するほか、次の事業を行った。

(1) 自然との関わりを主とした来園促進のための各種イベント

恒例となっている「枝豆収穫」や「ジャガイモ掘り」、「サツマイモ掘り」などの収穫体験イベント。ヨモギ・タンポポなどを摘んでてんぷらにして味わう「春を天ぷらで味わおう」を実施した。また、「テナガエビ釣り大会」、「セミの羽化とカラスウリの花観察会」、「セミ取り」、「セミのぬけがら調査」、「夏休み昆虫教室」、「木の実観察会」、「冬の野鳥観察会」といった、生き物の生態を感じてもらうイベントなど、子どもたちが自然とのふれあいを体験できるイベントを開催し、多くの親子に参加いただいた。猛暑の中での開催となった「夏休み昆虫教室」は、昼時間帯は特に気温が高く虫の活動がにぶくなるため、例年11時～14時の観察時間を10時～12時に前倒し実施した。

コロナ禍により定員を設けて実施していた「セミのぬけがら調査」など、本来、定員を設けずに実施可能なイベントについては、より多くの人に参加してもらうためにコロナ禍前と同様に定員を設けずに開催した。

このほか、

- ① 子どもたちの挑戦欲求を満たす遊びとして定着している「フィールドゲーム」、「スタンプビンゴゲーム」を実施し、季節ごとに内容の見直しを行うことにより、リピーターを含め利用者が増加傾向となっている。
- ② 平日の集客増とシニア層を中心とした自然愛好家の利用を促すため、7～9月を除く毎月1回、園内の自然の中を歩く「ノルディックウォーキング」を開催し、多くの参加をいただいた。

(2) 季節ごとの集客イベント

恒例のゴールデンウィーク期間に行われる「春まつり」では、「こいのぼりのペンダントづくり工作」や「カブトづくり」、「こどもの国のシンボルマークのかざぐるまづくり」、「スタンプビンゴ」など、期間を通して様々な内容により開催した。また、昨年度から始めた「ミニ夏まつり」は平成

記念館を会場に、ヨーヨー釣り、金魚すくい、盆踊りなどを内容として開催し、多くの子どもたちに保護者らと一緒に参加、楽しんでいただいた。

「梅まつり」ではコロナ禍により提供を中止していたホットミルクの提供を雪印こどもの国牧場の協力を得て実施した。

冬季の日曜日を中心に中央広場で実施した、焼き芋が人気の「たき火広場」ではコロナ禍以降はじめてマシュマロ焼きを行い盛況であった。

(3) プール、スケート、野外炊事、スポーツ施設等

- ① プールは4年ぶりに人数制限なしで実施し、約53千人の利用者数となり、前年度比45%の増となったが、コロナ禍前の令和元年度と比較すると75%にとどまった。また、利用者の利便性向上のためにプールサイドへの履物の解禁やスマホの持ち込みルールの変更、自動音声による注意事項放送を実施した。
- ② スケートは、期間を12月16日から2月25日までの61日間とし、入場制限などは行わず、コロナ禍前とほぼ同内様での営業を行ったが、感染症対策としてコロナ禍から引き続き、食事専用スペースを設置した。今期は記録的な暖冬により気温が25℃を超える夏日予報などにより、開場初日の12月16日(土)、17(日)、2月20日(火)を終日、2月15日(木)、19日(月)を午前中のみでの営業とした。有料利用者数は、約37千人で前年度比10%の減となった。なお、早朝スケート教室、学校団体スケート教室は中止した。
- ③ 野外炊事場は平日の学校団体の利用も徐々に増え、週末には家族連れを中心に企業団体の利用も増え賑わいを見せており、コロナ禍前の状況に戻ってきている。
- ④ テニスコート、総合グラウンドの予約状況は例年と変わらず好調を継続しているが、サッカー場は大規模改修工事のため11月20日以降、年度内の利用を中止とした。
- ⑤ キャンプ場は、4年ぶりに学校の夏休み期間の金・土曜日において、家族単位での宿泊利用を再開し、雨天の日を除き、9割以上の利用率となった。

(4) その他の自主事業

「運動遊具の貸し出し」、「かざぐるま工作」等は例年どおり実施し、多くの子どもたちに楽しんでいただいている。屋内イベントの「各種工作・陶芸」は、月平均4回程度で開催し、工作ではペンダントや万華鏡作りなどを、陶芸ではお皿や手型プレート作りなどを実施した。

こどもの国開園前の弾薬庫時代の案内を中心としたガイドブック（A4版8頁）を新たに作成し、それを見ながら園内を散策してもらえるよう、4月から販売を開始した。年間の販売部数は421部であった。

(5) 雪印こどもの国牧場との連携

「雪印こどもの国牧場」との連携では、桜の季節に毎年行っている「桜と羊のフェスティバル」、6月の「牛乳まつり」、11月の「牧場まつり」の際、例年同様に牧場エリア内において、それぞれ、「桜のかざぐるま工作」、「牛のかざぐるま工作」を行った。

(6) 企業の助成や協賛、教育関係団体等の協力による事業の実施

① フォトコンテスト

例年どおり、雪印メグミルク、資生堂、横浜エフエム放送、朝日新聞社、朝日新聞出版、東急電鉄、横浜高速鉄道、ベルマーク教育助成財団の助成・後援を得て、「こどもの国の春を感じて」をテーマに3月18日から4月末まで「春のフォトコンテスト」を実施。応募点数は、339点（昨年は331点）と数多くの応募をいただき、うち35点を入賞作品とした。

② 吹奏楽コンテスト・ブラスフェスティバル

第41回「吹奏楽コンテスト」は、コロナ禍の影響により4年ぶりの開催となったが、これまでどおり神奈川県、東京都の両吹奏楽連盟の協力とヤマハミュージックジャパンの支援により、応募のあった小中学校の吹奏楽部から抽選で参加校を選出し、10月15日に開催。また、令和4年度から始めた「ブラスフェスティバル」も抽選により、春（5月13日、14日）22校、秋（10月14日）11校、冬（11月25日）8校が参加し、いずれも平成記念館を会場に開催した。

③ こどもの国サッカー大会

神奈川県横浜・川崎・相模原・厚木・大和及び東京都町田の近隣6市のサッカー協会と連携し、朝日新聞社、モルテンの支援を受け、11月11日（土）、12日（日）の2日間、小学生が3クラス（高中低の各学年）各8チームと女子6チームがそれぞれ優勝を競った。令和5年度で第42回を迎える恒例行事である。今大会に先立ち神奈川県サッカー協会より少年サッカー用ゴール1対を寄贈いただいた。

④ 朝日新聞社スポーツイベント

朝日新聞社の協力によりサッカー元日本代表の「野人」岡野雅行氏による「かけっこ教室」を11月23日（木）の午前・午後各150人が参

加し、サッカー場を会場に開催した。

⑤ 神奈川県児童福祉施設駅伝大会、卒業生送別マラソン大会

資生堂子ども財団の助成を得て、神奈川県内の児童福祉施設児童が参加し、施設対抗で開催する駅伝大会（11月18日（土）54チーム400人参加）。また、神奈川県内の児童福祉施設の児童が卒業または施設を巣立つことの記念（思い出）として、卒業生マラソン大会（1月27日（土）492人参加）を開催した。

⑥ インクルーシブスポーツフェスティバル

来園者への新たなこどもの国の利用提案として、インクルーシブスポーツの体験イベントを公益財団法人横浜市スポーツ協会との連携により、2月3日（土）中央広場において開催した。レース用車いすの試乗体験、アレンジポッチャ、スカットボールなどの競技体験のほか、音楽に合わせて体を動かす「絵本でピクニック」などが行われた。令和6年度も引き続き実施する予定である。

⑦ ジャンボカルタとり大会、どんど焼き

テレビ朝日福祉文化事業団の助成を得て、正月行事として恒例となっている「ジャンボカルタとり大会」を1月2日（小雨により午後から会場を平成記念館に移動）、3日に開催。「どんど焼き」を1月13日（土）に中央広場で開催した。

4. 地域との連携強化

（1）例年、近隣地域との交流を推進するため、夏休み及び冬休みにおける地元自治会主催の「親子の集い」行事の実施にあたり、プールとスケート場の無料開放を行った。

プールは7月24日（月）に実施（991人利用）、スケートは12月23日（土）に実施（1,075人利用）し、多くの方に楽しんでいただいた。

（2）地元、横浜市青葉区との連携では、広報紙「AOBA」に、こどもの国の告知枠をいただいております、その枠を有効に活用し、イベント情報に加え「今月の見どころ」も毎月紹介していただいた。また例年、青葉区役所で開催されている「区民まつり」に出店し、園内で収穫した銀杏の販売と無料のかざぐるまづくりを実施した。さらに、地元青葉区民デーにおける中学生以下の入園料無料を12月2日（土）に実施し、65人に利用いただいた。

- (3) 東急バス青葉台営業所と青葉警察署、建設業協会のコラボにより、12月16日(土)に交通安全教室を開催し、交通安全PRイベントとしてバスの死角体験やポルシェのパトカー、白バイ、建設重機の展示などを行った。
- (4) 地元小学校の生活活動の一環として、中央広場花壇へのチューリップの植栽や椿の森の散策路整備など体験活動の場としての受け入れを行った。
なお、総合的学習・進路学習に寄与するため、例年、地元の中学・高校が実施する職場体験学習のための生徒の受け入れを行っていたが、コロナ禍以降、学校側からの要請がない状況が続いている。
- (5) 令和元年度から地域共生社会の推進の観点から、地域の若年認知症及び障害者団体の就労支援事業と協働し、園内のベンチ清掃を毎週1回、委託実施しており、今年度も引き続き実施した。

5. 広報・PR活動

(1) ホームページとツイッターでの情報発信

園内イベントの告知の他、園内で見られる花の開花情報や見どころなどをホームページやX(旧ツイッター)などのSNSを活用し、タイムリーな情報発信を行い、SNSは1日1回以上の投稿を心掛け内容の充実に努めた。

(2) 「出前こどもの国」による広報・PR活動

コロナ禍の影響により商業施設での活動回数が減少したが、「たまプラーザテラス」や「中央林間手作りマルシェ」などで7回出店を行った。

商業施設以外での新たな活動場所として、9月に、青葉区内の保育園や神奈川県内の児童福祉施設に、「出前こどもの国」をアピールする機会をいただき、依頼のあった施設での活動を10月から実施した。2月以降は、活動エリアを緑区、都筑区へ拡げ、12か所で実施した。

6. 自然環境及び施設の整備

豊かな自然を維持するため、毎年、樹木の剪定、伐採等を計画的に進めているが、5年度は入園者の安全確保の面で主に倒木の危険性が高いナラ枯れ樹木と幹部が空洞化しているメタセコイアの樹木を伐採処分した。

施設の整備では、国費の補助により、利用度の高い「少年サッカー場」の

人工芝、防球ネットの張替等の改修工事と、経年によりたびたび故障が発生している「ミニSLたいよう号」の改修工事を実施した。また、日本宝くじ協会の助成により、老朽化した「ローラー滑り台」の更新工事を実施した。

7. 災害等の対応

(1) 土砂崩れへの対応

6月初めの台風の接近による大雨の影響により、日本体育大学と隣接している法面で土砂崩れが発生し、日本体育大学のアーチェリー場へ土砂が流入した。こどもの国側の土砂の流出のため、土砂の撤去及び清掃作業を実施するとともに、更なる土砂の流出防止と予防のための応急的な対応策として「養生シート敷設」、「大型土のう積み」を実施した。

令和6年度には、日本体育大学と協議しながら法面の本格的な保護工事を行うこととしている。

(2) レジオネラ属菌検出への対応

「せせらぎ施設」の定期的水質検査において、基準値を超えるレジオネラ属菌が検出されたため、8月5日から同施設の利用を中止し、青葉福祉保健センターの指導を受けながら同施設の洗浄、消毒等を実施した。改めて実施した水質検査において、レジオネラ属菌は検出されず、安全が確認されたため、9月14日から同施設を再開した。

再開に当たっては、「せせらぎ施設の運営管理マニュアル」を見直し、更なる衛生管理の強化に努めることとし、予定どおり10月半ばに令和5年度の運営を終了した。

なお、幸いにレジオネラ肺炎などの利用者からの感染者は確認されなかった。

以上